

業績説明会資料


経営の現況について

2022年5月25日



説明内容

- 2022中期経営計画
- 2022中期経営計画の進捗状況



2022中期経営計画 (2020年度～2022年度)

「ありたい姿」と経営計画

2025年度のありたい姿

豊かで持続可能な社会実現のため、
「ライフ・ヘルスケア」、「電子・情報」、「環境・エネルギー」の
3分野において、化学の力で新たな価値を協創する企業グループ

NOF VISION 2025

2022中計・Stage I
(2020～22年度)

基盤強化ステージ(22年度)

営業利益: 290億円
営業利益率: 15%以上

2025中計・Stage II
(2023～25年度)

収益拡大ステージ(25年度)

営業利益: 380億円
営業利益率: 15%以上

2022中期経営計画(Stage I)

方針

『挑戦と協創』

重点課題

1. 成長市場への事業拡大
2. 新製品・新技術開発の加速
3. 社内外との連携強化
4. 生産性の向上
5. CSR活動の推進

戦略

- ・成長分野への積極投資
- ・低採算事業の収益基盤強化



2022中期経営計画の進捗状況

2022年度の事業環境

日油グループを取り巻く事業環境

- ・新型コロナ禍 ⇒ 徐々に収束
- ・ウクライナ危機 ⇒ 不透明
- ・半導体の供給不足 ⇒ 当面継続
- ・為替の変動 ⇒ 円安傾向の継続



需要は回復傾向
サプライチェーンや
原燃料価格への影響拡大

		22中計 想定	21年度 実績	22年度 想定
パーム油 ※	US\$/MT	660	1,055	1,600
国産ナフサ	円/KL	35,000	56,600	76,000
為替レート	円/US\$	105	112	120
	円/EUR	120	131	135

※FOBマレーシア

2022年度の業績予想の概要

2021年度実績と2022年度予想

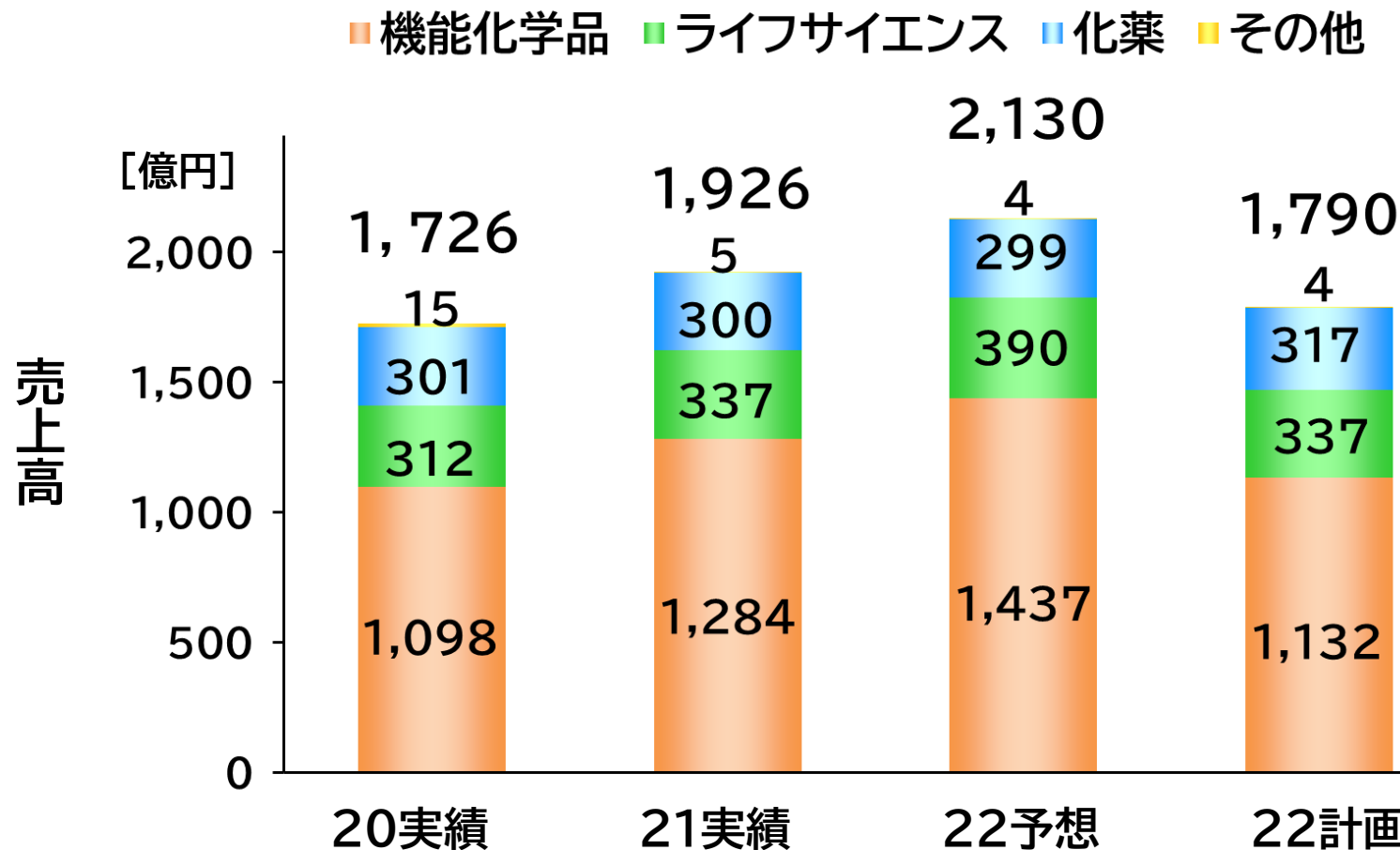
[単位:億円]

	21年度 実績	22年度 予想
売上高	1,926	2,130
営業利益	356	345
経常利益	376	356
当期純利益 ※	267	251

※親会社株主に帰属する当期純利益

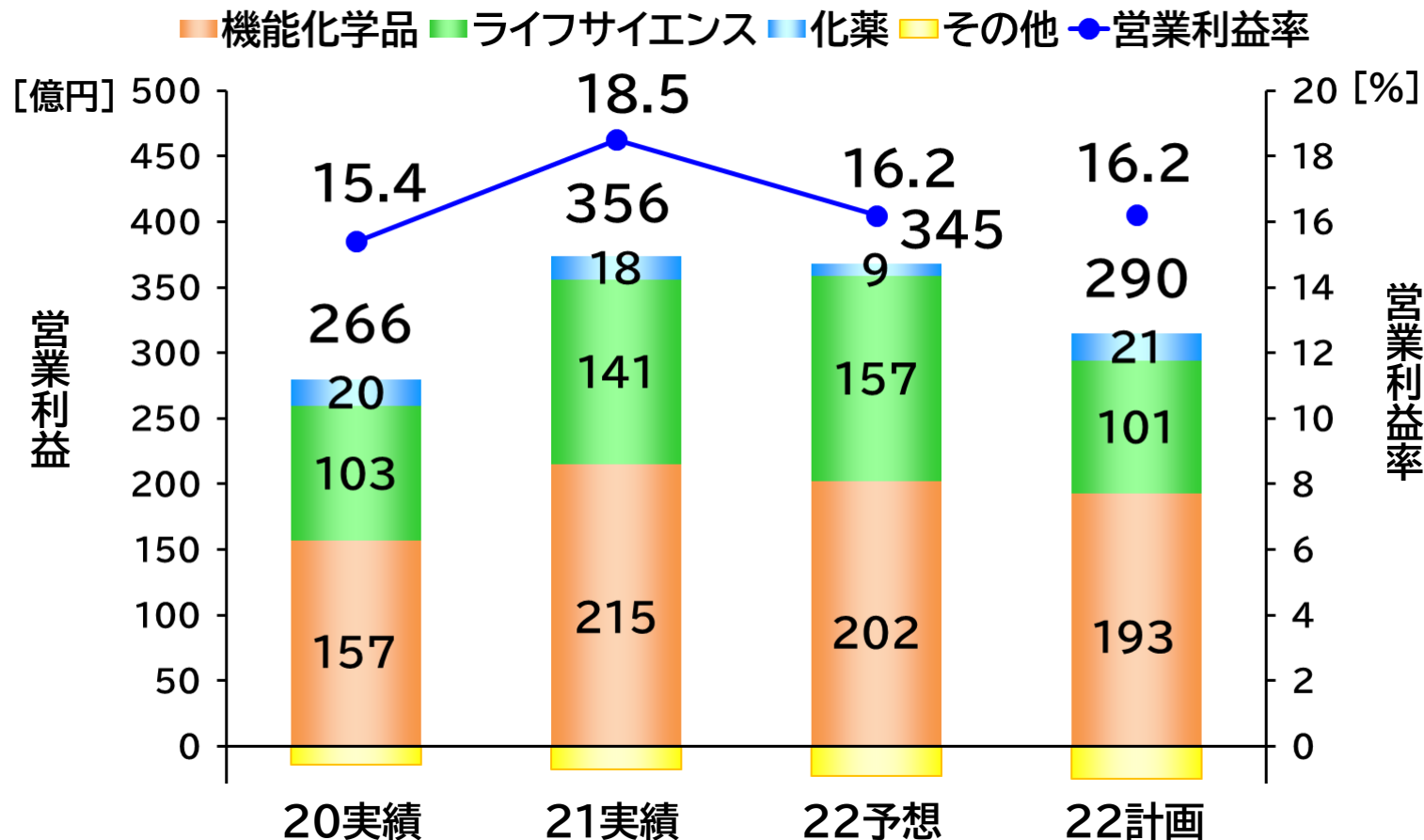
売上高の推移

2020～21年度実績と2022年度予想



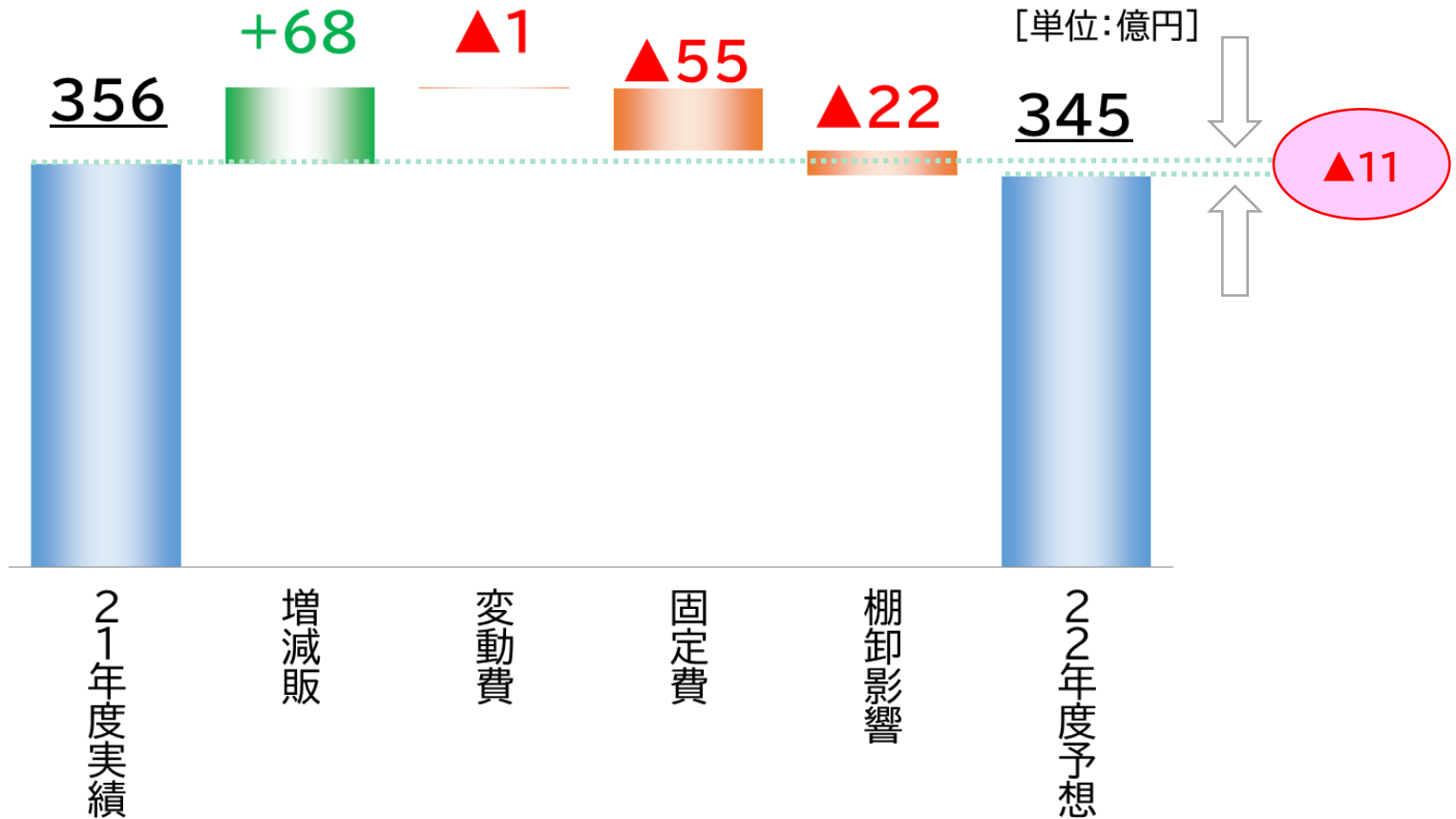
営業利益・利益率の推移

2020～21年度実績と2022年度予想



営業利益の差異内訳

グループ全体の差異(対前年)



機能化学品セグメント

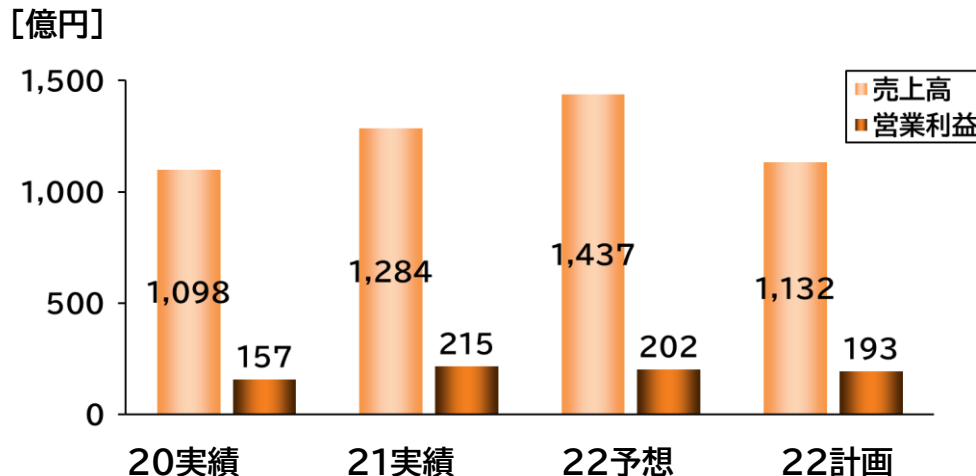
2021年度の概況と2022年度の予想

21年度

- ・冷凍機用潤滑基材、化粧品原料
⇒需要回復も原燃料価格の影響大
- ・特殊防錆処理剤
⇒自動車関連等の需要好調

22年度

- ・冷凍機用潤滑基材、化粧品原料
⇒原燃料価格の影響が拡大
(国産ナフサ: 対前年134%)
- ・特殊防錆処理剤
⇒自動車関連等の需要継続
半導体供給不足の影響は不透明



【22年度予想の対前年営業利益差異内訳】

増減販	変動費	固定費	棚卸影響	合計
+30	▲7	▲22	▲13	▲12

ライフサイエンスセグメント

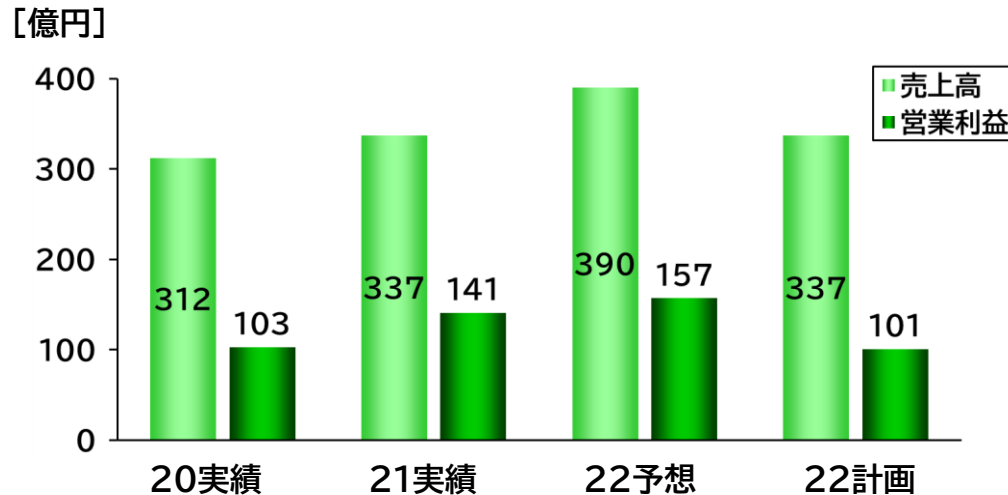
2021年度の概況と2022年度の予想

21年度

- ・医薬用製剤原料
⇒コロナワクチン向け需要拡大
⇒その他バイオ医薬向け需要も好調
- ・食用加工油脂
⇒原燃料価格の影響大

22年度

- ・医薬用製剤原料
⇒需要拡大に対する生産体制強化
- ・生体適合性素材 ⇒需要回復
- ・食用加工油脂
⇒個人消費回復も原燃料影響は継続
(パーム油: 対前年152%)



【22年度予想の対前年営業利益差異内訳】

増減販	変動費	固定費	棚卸影響	合計
+44	+4	▲22	▲9	+17

化薬セグメント

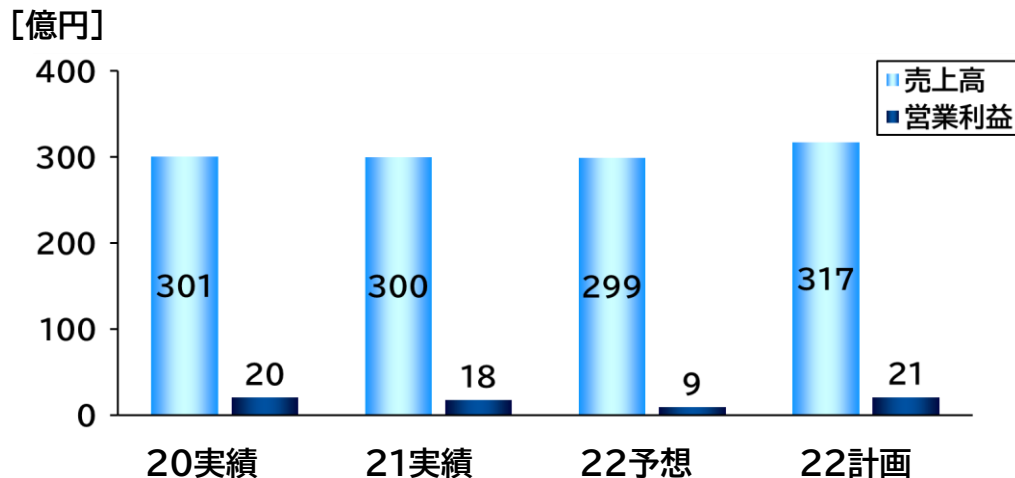
2021年度の概況と2022年度の予想

21年度

- ・産業用爆薬類
⇒北海道新幹線などの需要好調
(リニア新幹線は一部遅れ)
- ・宇宙関連製品
⇒基幹ロケットの打ち上げ延期

22年度

- ・防衛関連製品
⇒原料調達先における事故
(当社製品の生産にも影響)
- ・宇宙関連製品
⇒生産性向上などで収益性改善



【22年度予想の対前年営業利益差異内訳】

増減販	変動費	固定費	棚卸影響	合計
▲6	+1	▲4	▲0	▲9

2022中計の重点課題

5つの重点課題

1 成長市場への事業拡大

2 新製品・新技術開発の加速

3 社内外との連携強化

4 生産性の向上

5 CSR活動の推進

「成長市場への事業拡大」の施策

さらなる成長の加速

- ・機能化学品の需要回復継続
- ・ライフサイエンス(特にDDS事業)の需要拡大

需要に対する設備増強

- ・医薬用製剤原料の製造設備(川崎事業所) ⇒21年度稼働
- ・エチレンオキサイド誘導体の製造設備(川崎事業所) ⇒21年度稼働
- ・電子・情報分野へのポリイミド材料のパイロット設備(尼崎工場)
⇒23年度稼働予定

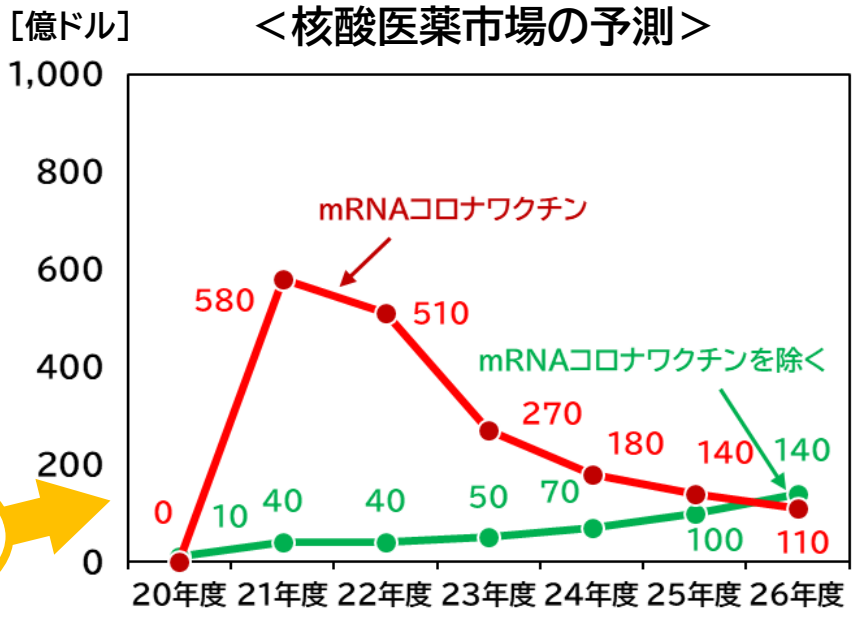
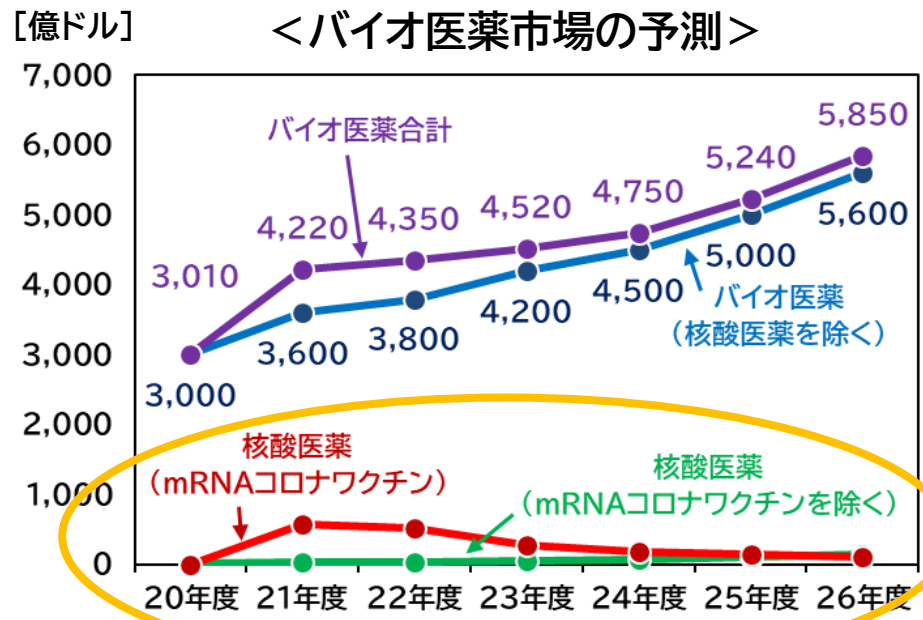
海外市場への展開

- ・機能化学品、ライフサイエンスにおける拡大
⇒海外売上高比率30%以上

さらなる成長の加速

DDS事業の需要の拡大

- ・将来、バイオ医薬市場が大きく成長する見込み(年率10%以上)
- ・21年度は、コロナワクチンを中心とした核酸医薬の開発が加速
- ・コロナワクチン需要は落ち着くが、その他の核酸医薬が成長



※Evaluate Pharmaを参考に当社推定

需要に対する設備増強

設備投資の計画と実績・予定

[単位:億円]

	22中計 計画	22中計 実績・予定			計
		20年度 実績	21年度 実績	22年度 予定	
設備投資 ※	257	84	64	85	233
減価償却費	178	56	59	61	176

※検収ベース

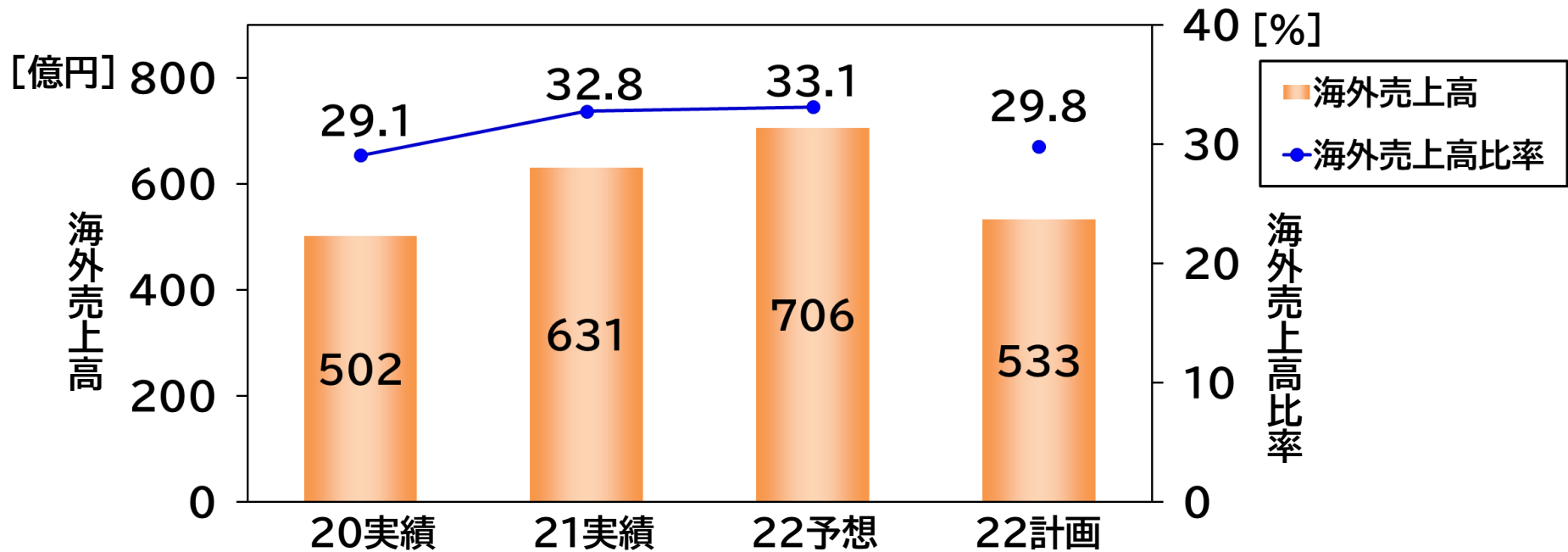
DDS事業の需要拡大に伴う製造設備建設

⇒川崎事業所(21年度稼働、24億円)

⇒愛知事業所(25年度までに稼働予定、100億円超)

海外市場への展開

海外市場での売上高と比率の推移



- ・医薬用製剤原料： 欧米などの医薬品メーカーへの輸出
- ・特殊防錆処理剤： 世界各国の自動車製造拠点へ現地生産で供給
- ・冷凍機用潤滑基材： 中国で生産し、アジアでの需要に対応

「新製品・新技術開発の加速」の施策

研究開発費の計画と実績・予定

[単位:億円]

	22中計 計画	22中計 実績・予定			計
		20年度 実績	21年度 実績	22年度 予定	
機能化学品	90	28	28	31	86
ライフサイエンス	44	13	15	16	44
化薬	44	14	14	14	41
共通(コーポレート) ※	20	3	5	10	18
合計	198	58	61	71	190

※新規事業開発室での先端医療・再生医療関連の研究、産学連携
⇒GMP対応少量試作設備を新設(21年度)、サンプル供給強化

「社内外との連携強化」の施策

オープンイノベーションの推進

21年度：産学連携プロジェクトでの「バイオ化学品」「熱制御素材」分野でのパートナー公募

22年度：採択テーマの委託研究開始分野を広げて公募を継続



①バイオ化学品

- ・バイオマス由来素材およびその誘導体化技術

②熱制御素材

- ・蓄熱：未利用排熱を有効活用するための蓄熱素材
- ・断熱：高性能で成形性の高い断熱素材
- ・放熱：放熱性を高めるバインダーによる放熱素材

「生産性の向上」の施策

デジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組み

『DXビジョン』

デジタルデータ・技術を活用することで、
新製品・新技術開発力と生産性の向上を実現

- ①研究開発部門 ⇒ **研究開発の効率化**
(マテリアルズ・インフォマティクス(MI)の導入)
- ②生産部門 ⇒ **スマートファクトリーの実現**
(DDS新工場の建設と既存工場への展開)

DXの取り組み(研究開発部門)

研究開発の効率化

マテリアルズ・インフォマティクス(MI)の導入

ありたい姿: MI技術の導入・活用による
研究開発の効率化、スピードアップ

取り組みの内容:

①MI技術の導入・活用

対象テーマの選定(20年度)

概念実証の実施(21年度)



複数テーマで有用性確認

⇒事業部門にて活用

⇒新規対象テーマの追加

②MI人材の育成

外部セミナーと社内教育(20年度～)

DXの取り組み(生産部門)

スマートファクトリーの実現

DDS新工場の建設と既存工場への展開

ありたい姿： 生産性が高く、安全で働きやすい工場の実現

取り組みの内容：

①デジタルデータ活用

データの見える化・共有化・解析 →

最適な製造条件、
品質、在庫管理、
設備保全へ活用

②作業負荷の軽減(機械化・自動化)

③技術・技能の伝承(標準化・共有化)

「CSR活動の推進」の施策

豊かで持続可能な社会実現のための新たな価値の提供

- ・事業活動を通じたイノベーションの実現
- ・目指す3分野での価値の供給

事業基盤の強化

- ・働きやすい職場づくりと人材の活躍支援
- ・CSR調達とBCP整備によるレジリエンス向上

レスポンシブル・ケア活動の推進

- ・化学物質の管理と労働安全の徹底
- ・気候変動への対応

気候変動への取り組み(1)

気候変動への対応方針

- ・気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)賛同
- ・長期目標: 2050年までにカーボンニュートラルを目指す
- ・中期目標: 2030年までに温室効果ガス排出量40%削減
(対2013年比)

温室効果ガス排出量の削減施策

- ・既存省エネ施策の横展開
- ・再生可能エネルギーへの転換
- ・新プロセス・新技術の検討

気候変動への取り組み(2)

脱炭素のイノベーション

- 産学連携プロジェクトをはじめとする研究開発活動
 - ⇒バイオマス由来素材およびその誘導体化技術
 - ⇒未利用廃熱を有効活用するための蓄熱素材技術など

持続可能性に貢献する製品の提供

- 電気自動車
 - ⇒電子部品用分散剤、電動ユニット用潤滑剤、異音防止剤、防錆処理剤
- 風力発電／太陽光発電
 - ⇒生分解性作動油、防錆処理剤、超高压・高压電線用有機過酸化物
- 代替肉
 - ⇒代替肉用乳化油脂

2022中計に対する進捗

2022年度の計画と予想

[単位:億円、%]

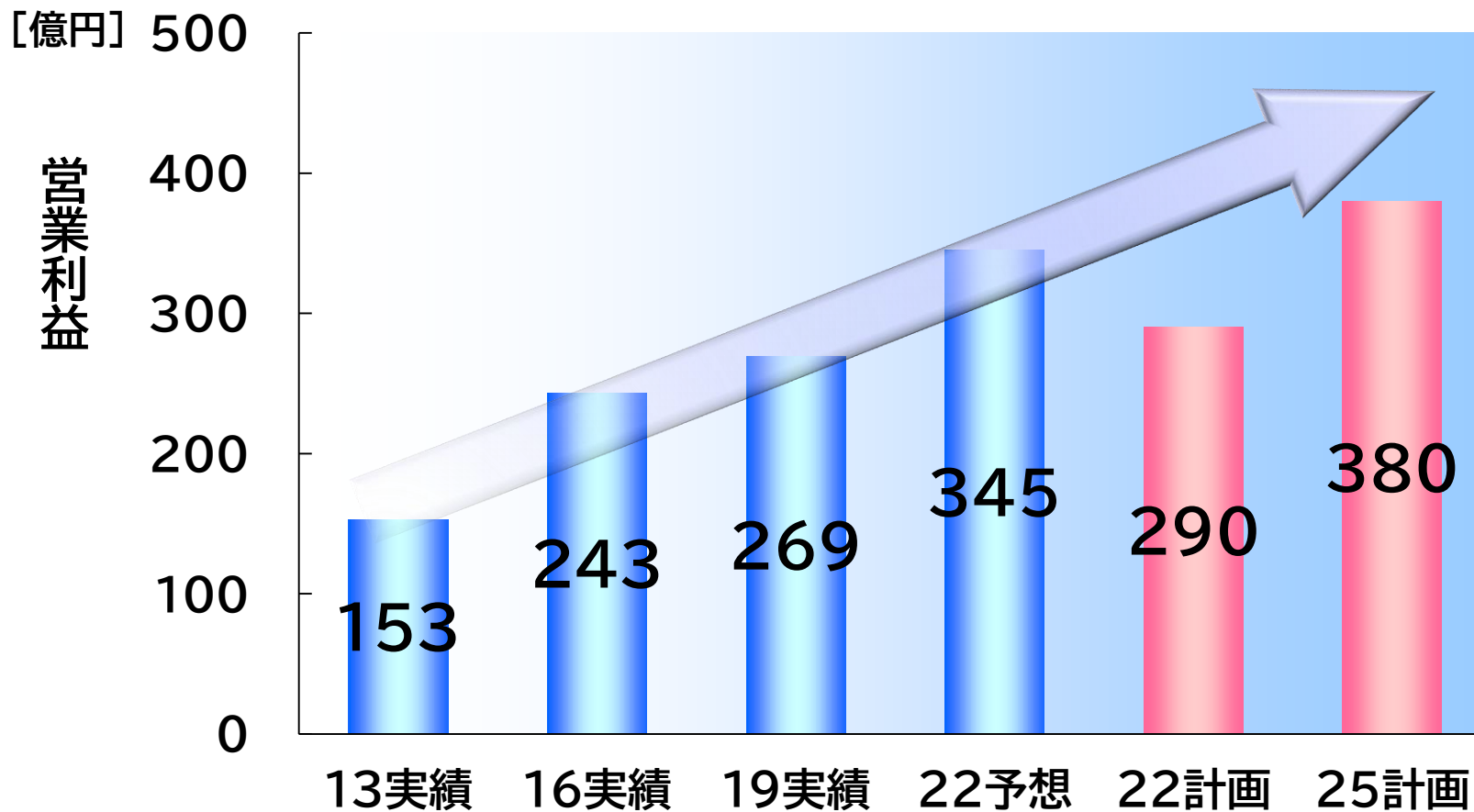
	21年度 実績	22年度 予想	22年度 計画	25年度 計画
売上高	1,926	2,130	1,790	2,100
営業利益	356	345	290	380
営業利益率	18.5	16.2	15以上	15以上
ROA ※1	13.4	10以上	10以上	—
ROE ※2	12.6	10以上	10以上	—

※1 ROA: 総資産経常利益率

※2 ROE: 自己資本当期純利益率

2025中計の達成に向けて

2025年度の計画



バイオから宇宙まで

From the Biosphere to Outer Space



日油

NOF CORPORATION



- ・本資料はあくまで弊社をより深く理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて弊社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要素により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- ・本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。
- ・本資料の金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

お問い合わせ先：日油株式会社 経理部 IR室 森知明
住所：東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
電話：03-5424-6651
FAX：03-5424-1482
E-mail：iroffice@nof.co.jp
ホームページ：http://www.nof.co.jp